

# 特集 守り続けたい武豊町の自然 いっちょうだしうち 吉町田湿地のキセキ

「吉町田湿地を守る会」

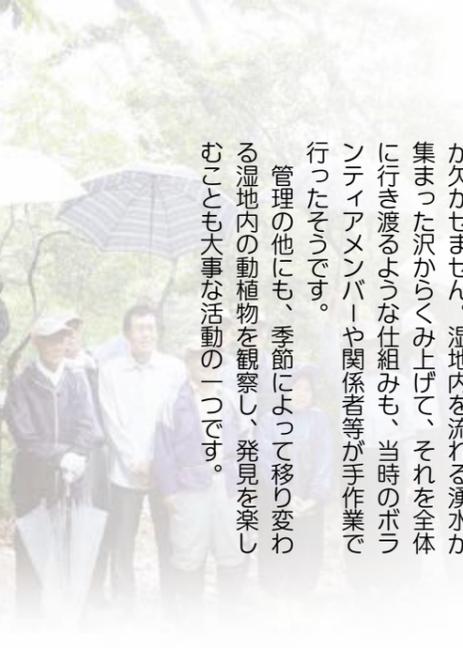
吉町田湿地は、町だけでなく、近隣住民、ボランティアのみならず、研究者等、多くの関わりの中でバトンが引き継がれ、今日まで大切に守られています。昭和58年に武豊町天然記念物に指定されたことを契機に、同年7月に「吉町田湿地植物群落保存会」が発足。動植物の専門家らから湿地の保存を目的としてボランティア活動を開始しました。

その後、「吉町田湿地を守る会」と名称変更し、現在は町内および近隣市町の自然や動植物を愛するメンバーで構成されています。

1年を通じて湿地内の湿り気の管理や草刈り、植物等の観察と記録、見学通路の整備等を行い、一般公開日にはガイドをします。

特に湿り気の管理は注意深く行う作業で、こまめなチェックが必要だそうです。湿地西側の開発で湧水量が減り、時には補水が必要になります。湿地が乾いてしまわぬように、逆に水が溜まり過ぎて湿り過ぎぬように、日々の記録と管理が欠かせません。湿地内を流れる湧水が集まった沢からくみ上げて、それを全体に行き渡るような仕組みも、当時のボランティアメンバーや関係者等が手作業で行ったそうです。

管理の他にも、季節によって移り変わる湿地内の動植物を観察し、発見を楽しむことも大事な活動の一つです。



## 吉町田湿地ってなに？

愛知県指定天然記念物「吉町田湿地植物群落」は、シロバナナガバノイシモチソウをはじめ、絶滅の恐れがある食虫植物や湿地性植物が自生する貴重な自然の宝庫。毎年一般公開には多くの人が見学に来ます。

県指定の天然記念物になっている吉町田湿地植物群落。第一回の一般公開は昭和59年。現在でも、一般公開には多くの人が訪れ、数多くの希少な植物を見ることができる場所となっています。その背景には、この湿地を守ろうとした人々の思いがあります。そして、そのバトンを現在に至るまで繋いできたからこそ、今でもこの自然が守られています。今回は、そんな吉町田湿地にまつわるエピソードを紹介していきます！



- 上) 雑草が影になって日当たりが悪くならないよう、こまめな除草作業が大事 / 5月頃に咲くササユリ / 活動の中で季節ごとに変わる植物を観察するのも楽しみの一つと話す
- 下) 湿地内を補水するためのポンプの手動スイッチ / 来場者にプレゼントしたいと、守る会のメンバーが手作りした可愛い置き物



▲平成元年7月1日付の新聞。吉町田湿地を守る会の前身である吉町田湿地植物群落保存会と湿地の紹介がされている



▲昭和59年1月25日付の新聞で、町が絶滅寸前の植物群の保護に着手したことがニュースになった



▲町文化財委員会一行による現地調査(昭和58年)

## 高校生の発見が世に出るキッカケに

昭和53年頃、武豊町北部一帯は土地開発の対象となっており、この湿地も開発予定地に含まれていました。この開発を避け、保護するまでに至ったのは、ある植物の発見が一つのきっかけとなりました。その植物は、吉町田湿地を代表する食虫植物「シロバナナガバノイシモチソウ」。

当時、半田高校のある学生が、昔よく遊びで入っていた吉町田湿地に少し変わった植物たちがあったのを思い出し、それを学祭で展示しました。その内の一つの名前が分からず、地元の人に詳しい人に尋ねました。それが、もう絶滅してしまった幻の花と言われていた「シロバナナガバ



## 絶滅寸前の植物群 保護するための決意

数々の調査の結果、イシモチソウをはじめとする吉町田湿地に生息する植物たちは、水質や土壌にとても左右されやすい植物群であることが判明しました。よって、現在の環境を壊さず保存することが重要であるという結論に至りました。

この貴重な武豊町の自然を守るため、地道な調査・研究と関係機関の協力の下、緑地保全地域として土地開発対象地域より除外することが決まりました。このことが決まるまでに約5年かかりました。

## news

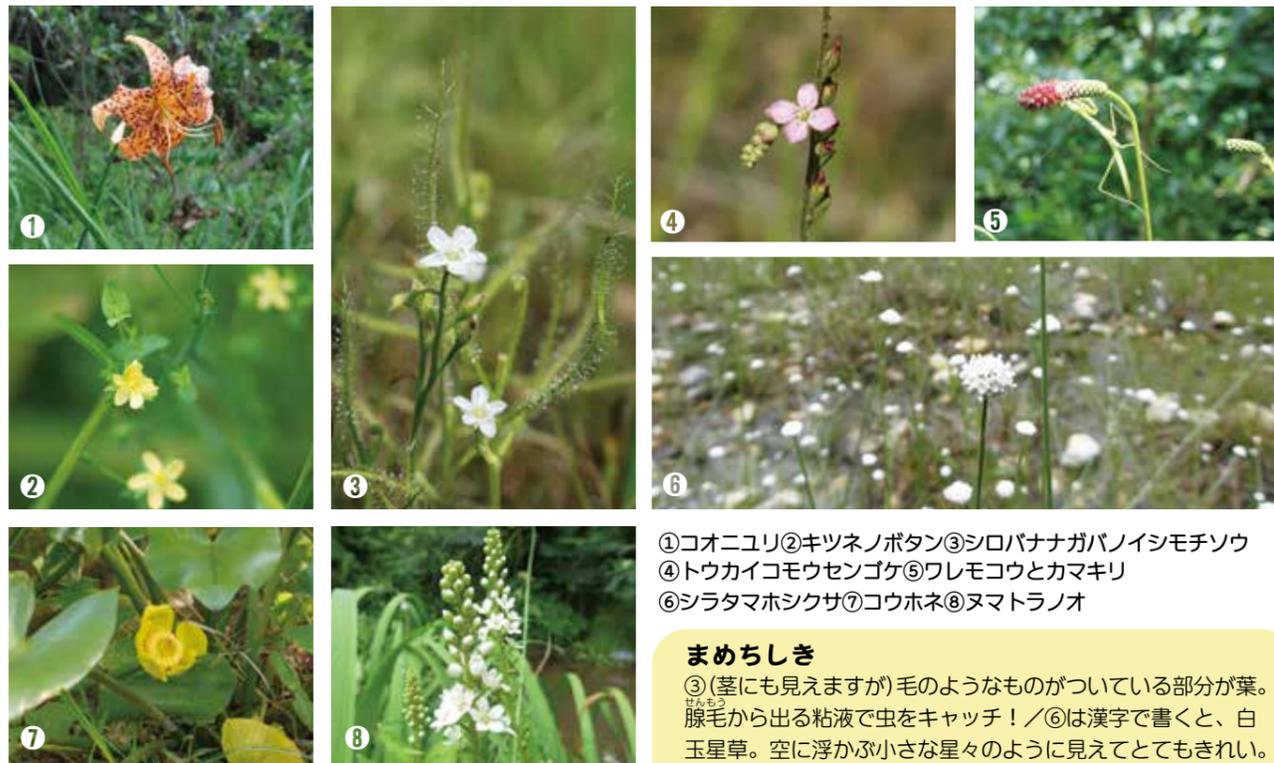
### 「吉町田湿地を守る会」が『令和3年度愛知県地域づくり表彰』を受賞！

長年にわたって地域づくり活動を続けた功績が認められ、表彰されました。代表の畠烈さん(写真・中央)は、「湿地の保全は自然との戦いであり、日々足を運び観察や調査、草刈りや水の管理を続けていることが、貴重な植物を絶やさずにいることに繋がっている」と話されていました。



小さくても魅力は特大！無限大！

## 魅惑の 老 町田湿地コレクション



①コオニユリ②キツネノボタン③シロバナナガバノイシモチソウ  
④トウカイコモウセンゴケ⑤ワレモコウとカマキリ  
⑥シラタマホシクサ⑦コウホネ⑧ヌマトラノオ

### まめちしき

③(茎にも見えますが)毛のようなものがついている部分が葉。腺毛から出る粘液で虫をキャッチ！／⑥は漢字で書くと、白玉星草。空に浮かぶ小さな星々のように見えてとてもきれい。／⑦はスイレンの仲間。水中からのびた茎に咲くなんとも言えない美しい黄色の花が可愛い。

虫を食べる?!  
食虫植物ってなに?

昆虫等をとらえ、消化・吸収して栄養をとる植物。老町田湿地で見られる食虫植物はいくつかありますが、代表はシロバナナガバノイシモチソウやトウカイコモウセンゴケ、ヒメミミカキグサ等。食虫植物の捕虫の仕方は色々ありますが、イシモチソウとモウセンゴケは「とりもち式」。葉の表面や縁にねっとりした粘液を分泌する腺毛によって蝶等を捕食します。捕食と言っても、実際にはゆっくり時間をかけて養分を吸い取るような感じです。運が良ければ、公開日に捕食している姿を確認することができますよ。

取材にご協力いただきました！／

はたいせいの 畠 烈さん  
(老町田湿地を守る会会長)



### 一般公開日のお知らせ

日時 7月24日(日)  
8月6日(土)、7日(日)  
9月17日(土)、18日(日)  
9:00~14:00(入場は13:30まで)  
※雨天中止  
場所 老町田湿地植物群落(字老町田355)  
料金 無料 申込み 不要  
その他 滑りにくい靴でお越しください  
問合せ 歴史民俗資料館 ☎73-4100



▲アメリカザリガニの駆除。  
この日は約200匹を捕獲

老町田湿地を守る会は、小中学生ボランティアと一緒に活動することもあります。元々、町内の小中学校で理科教育の一環として始まった老町田湿地のボランティア活動。約4年前から、老町田湿地を守る会が受け入れをするようになりました。活動は、湿地保全作業だけでなく、動植物の観察、里山保全のための講習や鎌等の使い方講座の受講、夜の昆虫観察会、一般公開のスタッフ等、多岐にわたります。

「自然に親しみながら、生き物を知ると同時にその生態を知る。その中で自然を守ることに楽しくなると、自然が守られていく。」そんな思いを込めて、様々な企画や体験会を、老町田湿地内で一年を通して行っています。

次世代へつなぐ活動

## 未来へつなぐ SDGs への取組み × 小中学生ボランティア



上) 夜の昆虫観察会/オリエンテーションの様子/一般公開時の受付等をお手伝い  
下) 里山保全の講習会。鋸の使い方や薪割りのレクチャーを受けた/間伐後の枝葉を運び出す

### 老町田湿地を守る会 メンバー募集

活動日 主に第1・3土曜日  
年齢制限はなし。町外在住も可。  
植物や昆虫等の知識が無くても大丈夫です。見学もできますのでお気軽にお問合せください！

問合せ 歴史民俗資料館  
☎73-4100

さて、もうすぐ一般公開日です。自然を愛し、守り続けてきたみなさんの思いが、つなぐ老町田湿地。この機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。



資源は捨てずに、リサイクル  
保全活動の中で、無駄なごみは作らず、出来るだけ再利用することにも心がけています。湿地内の木々を間伐した後、集めた枝等は焼物やストーブの薪として再利用しています。また、粉砕機でチップ化し、堆肥として、あるいは通路にまいて雑草が生えるのを抑制するためのものに利用しています。

こういった環境への配慮も、小中学生ボランティアのみなさんとの活動の中で伝えていきます。

資源は捨てずに、リサイクル